

TAMURA CORPORATION REPORT 2021

Biltrite Tamura

The 12th Mid-term Plan 2019-2021 & 2024

GROWING ANEW

オンリーワン・カンパニーの実現を目指します

経営理念



MISSION

私たちは タムラグループの成長を支える全ての人々の幸せを育むため、世界のエレクトロニクス市場に高く評価される独自の製品・サービスをスピーディに提供していきます。

VISION

- 1 タムラグループは、世界的視野にたち、エレクトロニクス産業が求める事業を経営基盤とします。
- 2 タムラグループは、市場本位をつらぬき、世界のお客様が求める技術を事業基盤とします。
- 3 タムラグループは、公正な視点で社員を評価し、努力によって成果をもたらす人を最も賞賛します。
- 4 タムラグループは、国際社会の一員として行動し、各国の法規制を順守し文化・慣習を尊重します。
- 5 タムラグループは、地球環境の保全に努め、資源の有効化と再資源化を推進します。

GUIDELINE

1. 私たちは、パートナーシップを大切にする。
2. 私たちは、革新する勇気を大切にする。
3. 私たちは、多彩な個性を大切にする。
4. 私たちは、社会的な責任を大切にする。

事業の系譜とコア技術	03
製品紹介	05
トップメッセージ	07
タムラグループの価値創造	11
マテリアリティ (重要課題)の特定	13
事業紹介	
■ 電子部品	15
■ 電子化学実装	17
■ 情報機器	19
持続可能なバリューチェーン ～創出する付加価値～	20
CSRレポートダイジェスト	
■ CSR目標と実績	21
■ 環境トピックス	23
■ 社会・ガバナンストピックス	25
会社情報	
主要財務データ(連結)	27
事業部門別 売上高／営業利益／営業利益率	28
主要非財務データ	28
事業拠点	29

会社概要

会社名 株式会社タムラ製作所
TAMURA CORPORATION

創業 1924年 5月11日

設立 1939年11月21日

資本金 11,829百万円

株式 (2021年3月31日現在)
発行可能株式総数 252,000,000株
発行済株式の総数 82,124,917株
(自己株式646,556株を除く)

決算期 年1回 3月31日
株主数 13,716名

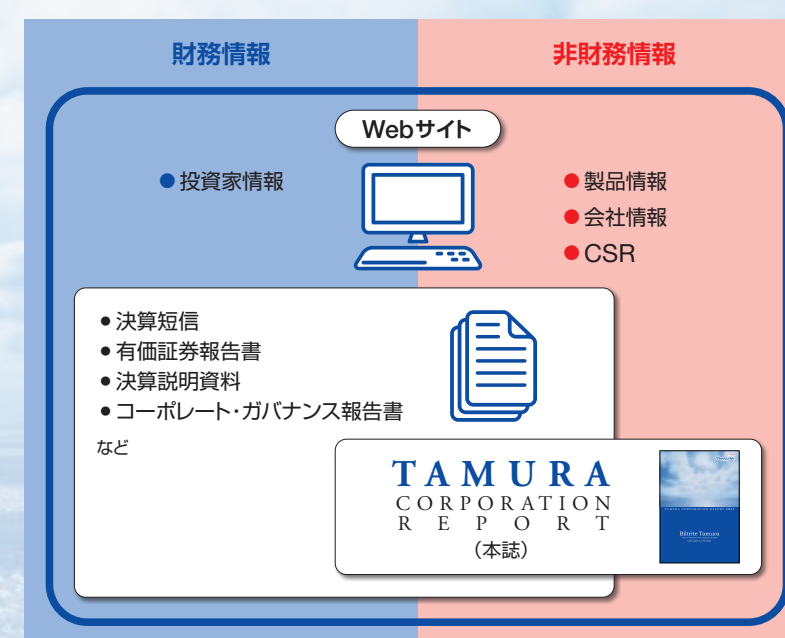
役員 (2021年6月25日現在)

代表取締役会長 田村 直樹	取締役上席執行役員 南條 紀彦
代表取締役社長 浅田 昌弘	取締役上席執行役員 齋藤 彰一
取締役常務執行役員 橋口 裕作	常勤監査役 横山 雄治
取締役(社外) 蓑宮 武夫	監査役(社外) 守屋 宏一
取締役(社外) 窪田 明	監査役(社外) 戸田 厚司
取締役(社外) 茨村 晴子	

組織図 (2021年4月1日現在)



情報体系図



編集方針

本冊子は、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループの事業活動を通じた価値創造とCSRの主要な取り組みについてご報告するものです。財務情報、及びCSRについての詳細は、当社Webサイトに掲載しています。

報告対象期間

2020年4月1日～2021年3月31日
(一部、2021年4月以降の活動も含みます)

発行

2021年7月(前回:2020年8月 次回:2022年7月)

参考としたガイドライン

ISOガイドライン規格「ISO26000」
国際統合報告評議会(IIRC)
『国際統合報告フレームワーク』

お問い合わせ先

CSR推進本部
TEL.03-3978-5293 FAX.03-3978-2760
E-mail:csr@tamura-ss.co.jp
Webサイト:https://www.tamura-ss.co.jp/

脈々と輝き続ける 歴史に培われた技術力

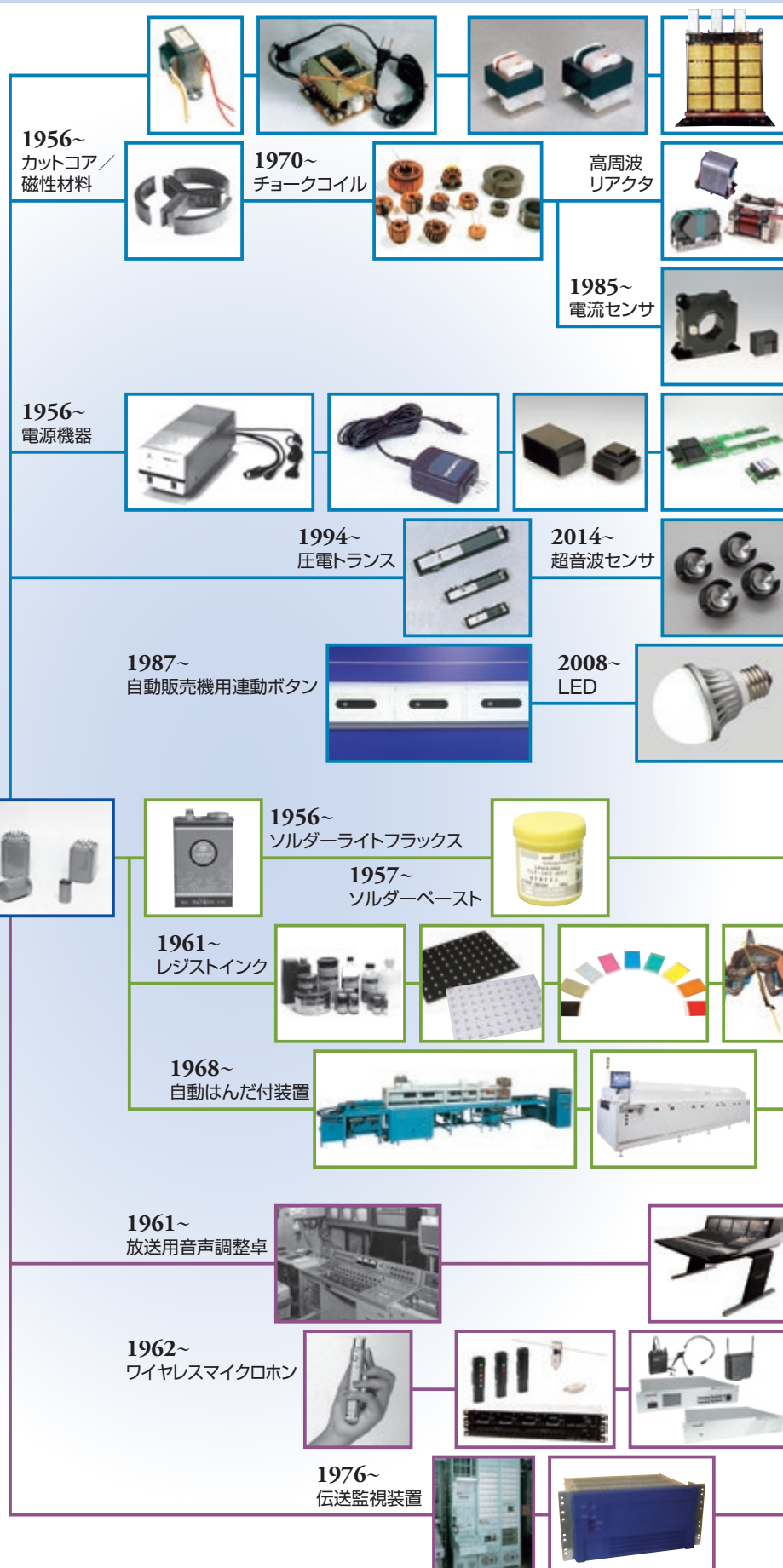
HISTORY

日本でラジオ放送が始まる1年前の1924(大正13)年、当社の前身である「田村ラヂオ商会」が創業しました。ラジオ修理、さらにオリジナルのラジオ作りを行う中で、「良い音」の追求から、その鍵となるトランスの製作を手掛けるようになり、「トランスのタムラ」としての礎を築きました。

since
1924ラジオ、蓄音機の
製作・販売1930～
トランスの自作化
ビルトライト各種
トランス

その後、トランスを軸とした各種電子部品、良いトランスを作る良い接合材料への追求からフラックスやはんだ材料、はんだを接合するためのはんだ付装置、さらには放送用・通信用トランスの実績から放送用音声機器・通信機器へとその業容を広げてまいりました。

現在では、電子部品、電子化学実装、情報機器の3つの事業分野で、環境やエネルギーなど新たな市場のニーズに応える製品を開発、供給しています。



PRODUCTS

スイッチングトランス、リアクタ、コイル
(高周波製品)電源トランス、リアクタ、コイル
(低周波製品)

特殊大型トランス・リアクタ

電流センサ

ACアダプタ・バッテリーチャージャ
電源モジュール
屋外LED照明用電源
ゲートドライバモジュール

圧電セラミックス製品

LED関連製品
自動販売機関連製品
IoT関連製品(人感センサ／環境可視化センサ)ソルダーペースト、棒はんだ・糸はんだ
ポストフラックス
導電性接合材ソルダーレジスト
(リジッド基板用・フレキシブル基板用)
(写真現像型カバーレイコート)
OSP(プリフラックス)
白色反射材、黒色吸収材リフローはんだ付装置
ウェーブはんだ付装置
スプレーフラクサ他周辺機器放送用音声調整卓
音声周辺機器等ワイヤレスインターカム
ワイヤレスマイクロホン通信ネットワーク機器
セキュリティ関連機器
各種OEM製品

CORE TECHNOLOGY

パワーソリューション

- ガストコア素材開発と量産化技術
- 電磁界、熱、構造の各解析(シミュレーション)技術
- 高効率低ノイズ電源技術
- 大電流トランス巻線技術
- 環境対応技術
- 高信頼規格(JAXA・MIL規格等)適応技術
- 大型製品量産技術
- 特殊仕様(水冷・防水・高圧)設計技術

圧電セラミックス

- 材料開発・プロセス技術
- 素子設計技術・解析技術
- 圧電素子の制御技術

LED/LD応用・IoTソリューション、半導体デバイス

- LEDパッケージング技術
- 防水技術
- 熱設計・解析技術
- 光学設計・解析技術
- 高効率反射処理技術
- センシング技術
- データ処理技術
- 単結晶基板育成技術
- 高品質エピ成膜技術
- 高効率・高出力LED製造
- 照明設計技術
- 光学単結晶技術
- 無線技術

実装プロセス／プリント配線板材料／半導体実装材料

- 材料と設備一体の製品開発とコラボレーション
- 樹脂設計・合成技術
(感光性樹脂・熱硬化性樹脂・熱可塑性樹脂)
- 金属粉末製造技術
- 光硬化技術
- 環境対応技術(鉛フリー化対応、ハロゲンフリー化対応)
- シミュレーション技術(C.A.E解析)
- 材料設計に貢献する分析技術
- 製品品質に係る信頼性評価技術
- リフロー加熱技術
- ウェーブはんだ付技術
- (窒素)雰囲気制御技術
- はんだ接合技術
- 熱硬化技術
- ソルダリング技術
- 熱制御技術

情報機器

- 音声処理技術
- デジタル信号処理技術
- 音響技術
- 高周波技術
- 無線技術
- 高密度実装技術
- サラウンド音響技術

社会・産業・暮らしを支える タムラのテクノロジー

タムラの製品は「材料」「部品」「装置」として、自動車や電子機器など身近な製品から製造現場の装置や再生可能エネルギー分野、さらには宇宙まで、様々な産業や社会インフラを支えています。素材からシステムまで、タムラのテクノロジーは人々の暮らしの安全・快適や脱炭素社会の実現に貢献しています。

電子部品
電子化学実装
情報機器

航空・宇宙で

航空機からロケット・人工衛星まで、究極の耐環境性で社会に貢献しています。



トランス・リアクタ

灯台で

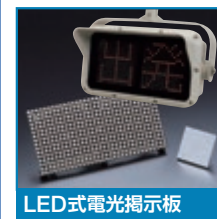
超高輝度で、高い直進性が求められる灯台の光源を省エネルギー化、長寿命化し、メンテナンス性を向上します。



パワーLED

駅で

発着案内などの情報伝達手段として、音声・表示で鉄道運行を支えます。



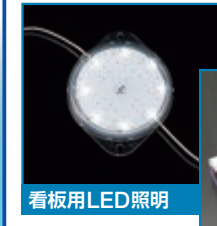
LED式電光掲示板



駅用ワイヤレスマイクロホン

コンビニや店舗で

店舗サインやショーケースなど、省エネに貢献するLED光源です。



看板用LED照明



ショーケース用LED照明

通信基地局で

通信基地局用の基板に欠かせない材料として、デジタル通信システムを支えています。



ソルダーレジスト



ソルダーペースト

放送局で

視聴者に届ける音声を調整する機器と、局内連絡用の無線システムです。



音声調整卓



DECT規格インターカム



ポータブルミキサー

街の自動販売機で

表示や商品選択だけでなく、スマートフォンとの連動など最新機能を実現します。



商品選択ボタン



金額表示器

エコカーで

高信頼・高効率な部品・材料で、エコドライブや安心・安全を支えます。



車載用リアクタ・コイル



糸はんだ・棒はんだ



ソルダーレジスト



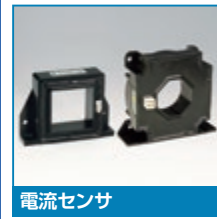
ソルダーペースト

風力・太陽光発電・インフラで

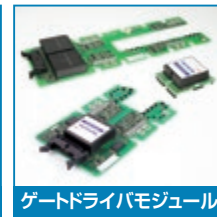
再生可能エネルギーの発電や直流送電の効率向上などに寄与する部品・材料です。



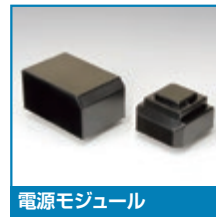
大型トランス・リアクタ



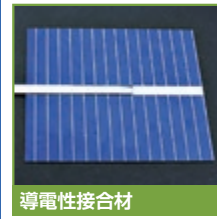
電流センサ



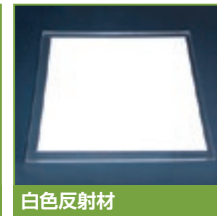
ゲートドライバモジュール



電源モジュール



導電性接合材



白色反射材



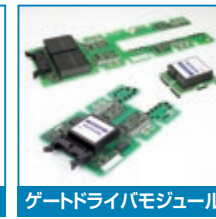
フラックス

工場で

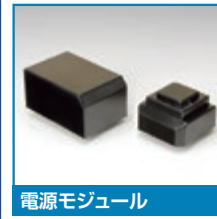
ロボットや工作機械の部品、プリント配線板実装に欠かせない装置が活躍しています。



電流センサ



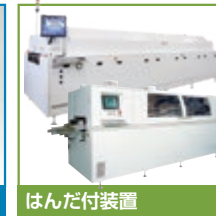
ゲートドライバモジュール



電源モジュール



トランス・リアクタ



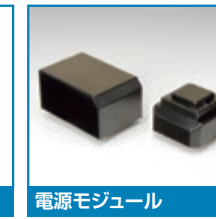
はんだ付装置

家庭で

エアコンやパワコンの省エネに寄与する部品、居室内で人の活動状況や快適性を見守るセンサです。



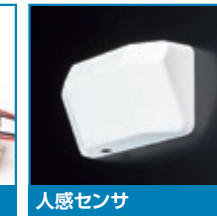
電流センサ



電源モジュール



リアクタ



人感センサ



環境可視化センサ

スマートフォンやタブレットPCで

多機能化・小型化する機器の進化を支える材料です。



フレキシブル基板向けソルダーレジスト



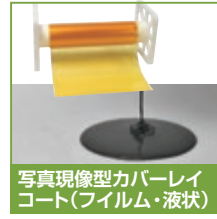
低アルファ線ソルダーペースト



(0201サイズ部品を接合) Type 6ソルダーペースト



黒色吸収材



写真現像型カーレーコート(フィルム・液状)



株式会社タムラ製作所
代表取締役社長

浅田 昌弘

株式会社タムラ製作所
代表取締役会長

田村 直樹

「事業戦略」「働き方改革」「業務改革」の三位一体の取り組みを通じて、脱炭素社会実現に貢献してまいります

タムラグループは、「カーボンニュートラル」など2020年に加速した市場ニーズへ対応し、事業を通じた社会課題の解決を一層推進するため、“Oneタムラ戦略”の取り組みを強化しています。コロナ禍における業績および中期経営計画の進捗状況をご報告するとともに、サステナビリティ経営で目指すべき方向性について会長・社長の両名からご説明します。

(インタビュー実施日:2021年5月20日)

新型コロナウイルスの影響等も踏まえ、2020年度の事業環境についてお聞かせください。

浅田:2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による世界経済の停滞の影響で、特に第2四半期までは売上・利益共に大きく落ち込みました。しかし10月以降はやや持ち直し、緩やかな回復基調にあります。

事業別では、電子部品事業と電子化学事業が回復に転じている一方で、はんだ付装置や自動販売機向けのLED関連製品などは、顧客企業の設備投資抑制などにより苦戦しました。生産体制については、ロックダウンが実施された国を中心に多少の混乱はあったものの、大きなトラブル等は発生せず、後半以降はコロナ禍においても以前と変わらぬ生産体制を整えることができています。

2021年に入ってから逆風は続いており、特に2月以降は原材料である錫、銀、銅、鉄など金属価格の高騰が電子化学事業

や電子部品事業にとって相当な痛手になっています。また、新型コロナウイルスの影響で航空機や船の便数が大きく減少し物流に影響が出ていると共に、運賃も高騰しています。どちらもまだ出口が見通せない状況ですが、下期には落ち着くと見えています。

2020年度の業績と中期経営計画の進捗状況などはいかがでしょう?

浅田:2020年度の業績は、対前年比で売上高が7.2%のマイナス、営業利益が14.0%のマイナスとなりました。事業別では、電子部品、電子化学実装が減収・減益となった一方で、情報機器は年度末の需要拡大期における売上を計画通り確保し、減収でありながらも増益という結果でした。中期経営計画の進捗としても、残念ながら目標に手が届かない状態で2年が経過しました。

現中期経営計画の最終年となる2021年度も、引き続き新型

コロナウイルスの影響が長引くと予測しており、目標達成は困難であると見えています。そのため、2021年度はアフターコロナを見据えた種まきの期間と位置付け、2022年度から始まる次期中期経営計画でスタートダッシュできる状況に持ち込み、そこからV字回復を図っていきたいと考えています。

Oneタムラ戦略として実施された施策と1年間の手応えや成果を教えてください。

浅田:Oneタムラ戦略は、将来へ挑戦する「事業戦略」、働きがいのある会社を目指す「働き方改革」、仕事の効率を高める「業務改革」を推進し、“Oneタムラ”を実現するという三位一体の取り組みです。

この取り組みを進めるため、2020年には「経営層の担当配置換え」を実施すると共に「戦略的事業での事業部連携強化」を図りました。担当配置換えで事業部門のトップが入れ替わったことから事業戦略図も新たに描き直すこととし、縦軸に「新規の製品・技術」と「既存の製品・技術」を、横軸に「既存市場」と「新規市場」を当てはめた「4象限マトリクス」を作成して、持続的な成長に欠かせない新たな事業をどのように創造しているのか、今後目指すべき方向性を定めました(10ページ)。

また、「新規市場」における「新規の製品・技術」を創造するため事業部横断の研究開発を進めるなど、事業部連携もこの1年で大きく前進しました。例えば、電子部品と電子化学の開発者の合同チームによる新製品創出プロジェクトが進行中です。さらにこの4月からは「事業改革推進室」を設置し、これまで以上にマーケティング強化を念頭に置いたプロジェクトも立ち上げました。会長と私を含めた経営層も参加して、事業を根本から見直す改革を力強く進めていく考えです。

Oneタムラ戦略では、コロナ禍で加速したニーズ特にカーボンニュートラルへの貢献を打ち出しています。

浅田:最近、国内外の企業から「将来的に温室効果ガスの排出量を実質ゼロ」とする宣言が続々と打ち出されています。当社は従来から風力発電や自動車、充電用など、エネルギー変換の基幹となる「高信頼」「高効率」の電子部品を取り扱っており、これらの製品群をさらに強化していきます。今後は、脱炭素社会の実現を念頭に置いた新しい製品・サービスを生み出し「カーボンニュートラル」というビジネスの潮流に追随し、大きな目標を掲げて新たな事業戦略に紐づけていく必要があります。

自動車については、EV車が主流となるまでには少し時間があり、HV車もまだまだ伸びていくと判断し、車載用昇圧リアクタの生産体制を拡充しています。グループ会社の若柳タムラ製作所に新設した工場では、2019年より本格量産を開始しています。

坂戸事業所でも2020年12月に新工場が竣工、2021年度中に生産設備を入れ、2022年度の前半から生産を開始する予定になっています。また海外では、中国において製造拠点の最適化を進めており、佛山に車載用昇圧リアクタ工場を新設したほか、深圳にあった電源関連製品の工場を蘇州・深圳の2工場に再編しました。

温室効果ガスについては、次期中期経営計画の策定に先立ち新しい削減目標が定められました。

田村:当社では社外取締役も含むCSR経営委員会を定期的に開催しており、この議論の中で「もう少し長期的な戦略が必要ではないか」というご指摘をいただいていた。カーボンニュートラルへの貢献やガバナンスコードの遵守などお取引先や株主の皆様からの様々な要請にお応えするためにも、ここで一度「タムラ製作所らしい新たなサステナビリティ戦略」を描くべきであると決め、そこに至るアプローチとして、まずは当社のマテリアリティ(重要課題)を抽出することとしました。

このマテリアリティ策定作業の中で、課題の1つである温室効果ガス削減については、社会的な要請が高まっていることを踏まえ、2030年までに2013年度比で51%削減する新たな目標を先行で決定しています。もちろんカーボンニュートラルが意味するところは「温室効果ガス排出量を実質ゼロにする」ことです。ですので、そのためのエネルギー調達方法の見直しも視野に入れ、今後は積極的に再生可能エネルギーの調達を図っていくつもりです。例えば、坂戸事業所ではNearly ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)として建てられている事務棟に加え、車載用昇圧リアクタ新工場の屋上に太陽光発電設備を新規導入することも検討しています。

SDGs(持続可能な開発目標)の基本方針 タムラグループ行動規範

持続可能な社会の実現とタムラグループの持続可能な発展を両立させることが、タムラグループの社会的責任(CSR)であると捉え、SDGsを社会的課題に関する世界の共通言語として認識し、SDGsがもたらす事業機会とその達成に向けて企業が果たすべき責任を理解すると共に、製品・サービス・技術と事業活動を通じて社会課題の解決に貢献します。



マテリアリティ策定作業の進捗と
新サステナビリティ戦略の公表予定を教えてください。

田村：マテリアリティは、候補に挙げた項目を「社会から見た重要度」と「タムラから見た重要度」という2つの視点からそれぞれ評価し、重要度が高いエリアに入った項目をリストアップしました。決定した9つの重要課題については、13ページで詳しく紹介しています。今期2022年度からスタートする次期中期経営計画の立案を開始いたしますので、特定されたマテリアリティを各事業部の戦略にも展開できるようにしたいと考えています。

新サステナビリティ戦略は現在策定中ですが、長期的な指針として次期中期経営計画に取り込むことが必須であると考えているため、こちらも詳細を詰めて事業戦略と融合した形で展開し、次期中期経営計画と同じタイミングで公表する予定です。

最近、SDGsが改めて社会から注目を集めていますが
2020年度は、どのような取り組みを実施されましたか？

田村：SDGsは、2015年9月に国連で採択されてから既に5年以上経過し、貢献するか否かよりも取り組みの中身が問われる時期にきています。私自身、これまで以上に推進責任者として責任の大きさを感じることが増えました。

2020年度は、SDGsに関わるものとして「タムラグループ品質方針」を改定しました。もともと「製品・サービスを通じて世の中に貢献する」ことが当社の最も基本的な社会的責任であるわけですが、その基盤となる品質についても一度原点に立ち返り、たゆまぬ品質向上こそがタムラグループにとってあたりまえの文化であることを再確認したという意味もあります。これがあたりまえの文化であるからこそ、製品品質を超えて企業全体の質を高めることになり、最終的にはすべてのSDGsにもつながっていくという考えです。この新しい品質方針を羅針盤として具体的な行動に落としていきます。



また、目標8の「働きがいも経済成長も」に関わる施策として人事制度改革をさらに進め、意欲のある人材を年齢や性別に関係なく重用する制度に改定しました。さらに、新型コロナウイルス感染防止の観点から積極的にリモートワーク等を活用したことが、結果として育児や介護の問題を抱える従業員にとっても働きやすい環境整備にもつながっています。

最後に、今後の課題と目指す方向性、
100周年に向けた抱負をお聞かせください。

浅田：目下の社会課題である「カーボンニュートラル」に対して、当社の製品群が非常に有効であると考えていますので、中期経営計画の核である「車載」「パワーエレクトロニクス」「IoT・次世代通信」に関連する分野を中心に信頼性と効率性に優れた新製品を開発・上市して、業績全体をけん引する戦略製品に育てていきたいと考えています。

さらに、戦略製品を生み出す現場のイノベーションを支援するため、ICTを積極的に活用した業務改革を推進します。人の多様性を尊重した働き方改革を進め、一人ひとりの希望と能力に添う人事制度を整備し、社員が本当に働きがいを感じられる会社としていきます。こうしたイノベーションを生み出すための組織風土づくりが、次期中期経営計画のスタートダッシュに必ずや結びつくと思っています。

田村：コロナ禍で過ぎた1年は、社外での活動が大きく制限を受けた反面、働き方改革や人事制度改革など内部的な体質強化を一気に加速できたというポジティブな側面も少なからずありました。事業面においても、新たな事業戦略図を描くと共に力強いポートフォリオを構築し、アフターコロナのビジネス環境に対応できる強靱な経営基盤を整えることができたかと確信しています。これからもタムラ製作所は、社会から必要とされる企業であり続け、間近に迫った100周年に向けてさらなる高みを目指してまいります。ステークホルダーの皆様には、これまでと変わらぬご理解・ご支援をお願いいたします。

第12次中期経営計画(2019-2021 & 2024)

Bilrite Tamura GROWING ANEW

Bilrite = Build up + Right
(作る) (正しく)

ANEW = 「新たに」「改めて」

タムラグループは長期ビジョンとして創業100周年(2024年)とその先に続く持続的な成長を見据える第12次中期経営計画に取り組んでいます。しかしながら、その初年度に新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に見舞われ、2021年度の業績予想は、中期経営計画で掲げた売上高・営業利益に遠く及ばない数字となっています。今後も厳しい経営環境の継続が予想されますが、中長期的に健全に成長していくことを目指して、中期経営計画で掲げる「Oneタムラ戦略」を一層推し進めることが、当社の対処すべき課題と認識し、取り組みを進めてまいります。

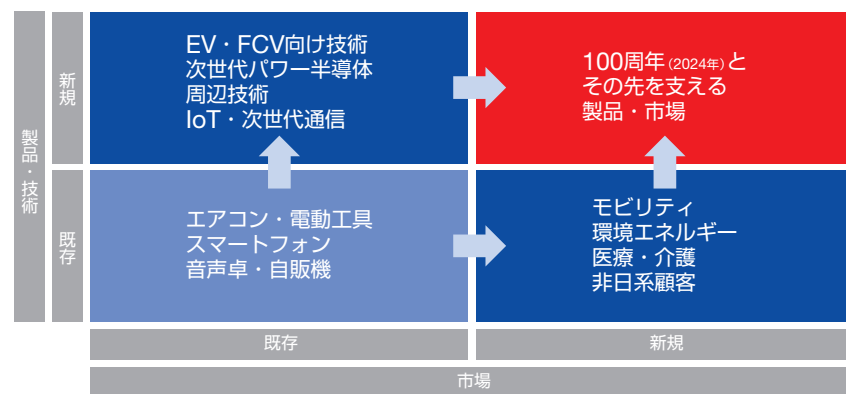
Oneタムラ戦略

三位一体の取り組み

1	将来へ挑戦する事業戦略
2	働きがいを目指す働き方改革
3	効率を高める業務改革

将来へ挑戦する事業戦略

既存市場・既存製品の先にある新市場・新製品にいかに関戦していくのかを社内で議論し、その実現に向けた戦略を定め、実行を進めています。第12次中期経営計画では、グループ全体で注力する市場として「車載」「パワーエレクトロニクス」「IoT・次世代通信」を掲げましたが、足元では脱炭素政策の加速で、電気自動車や再生可能エネルギーへの転換が前倒しで進んでいます。今後も、こうした成長市場に向けたグループ一丸となった取り組みを一層強化してまいります。



カーボンニュートラルの急速な進展

グループ全体で注力する市場

車載

環境対応車の普及
安全快適な走行を支える

世界的に高まるエコカーのニーズに対応して、燃費・環境性能をはじめ、走行性能や加速性能を高めるために欠かせない幅広い車載関連製品を提供します。

パワーエレクトロニクス

次世代の
省エネ社会を支える

再生可能エネルギーの拡大に向けた風力発電や送配電に使用する製品、エネルギー効率の改善に寄与する製品でパワーエレクトロニクスを推進していきます。

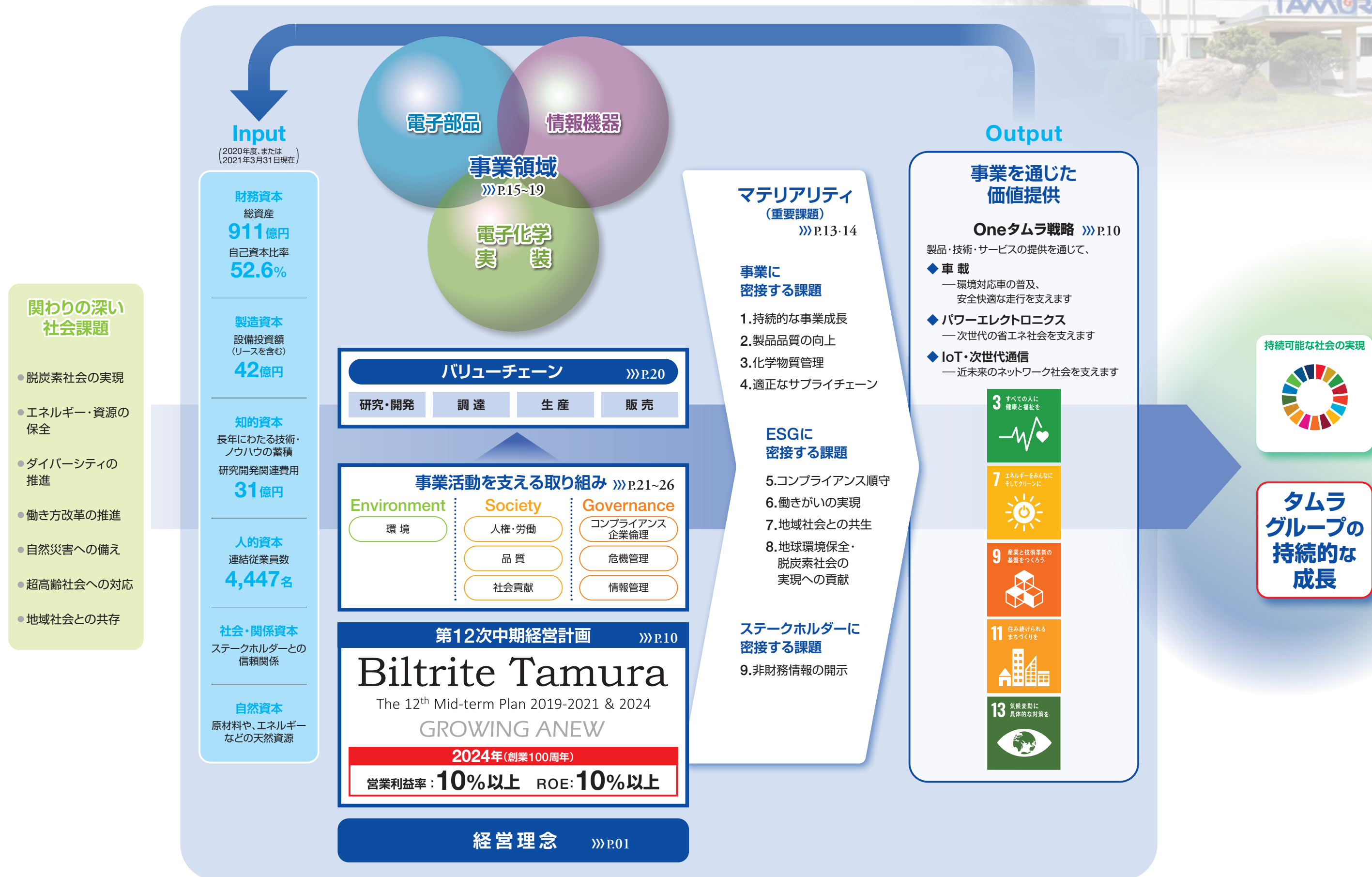
IoT・次世代通信

近未来の
ネットワーク社会を支える

5G(第5世代移動通信システム)スマートフォンなど、多機能化が進む電子デバイス用の化学材料をはじめ、様々な通信技術に対応する製品を提供します。

タムラグループは、事業活動を通じて社会に貢献していくことで、企業価値を向上し、社会的課題の解決に向けて、新たな価値創造に取り組みます。

Creating Value



マテリアリティ(重要課題)の特定

タムラグループは、2021年5月にサステナビリティに関するマテリアリティを特定しました。

タムラグループでは「環境」「人権・労働」「品質」「社会貢献」「コンプライアンス」「危機管理」「情報管理」の分野においてCSRを推進し、企業の社会的責任を果たすと共に、2030年をターゲットとしたサステナビリティ戦略を掲げ、SDGs（持続可能な開発目標）をグループ全体で取り組むべき課題と位置づけています。

さらに長期的な視野でタムラグループが目指す姿を明確に示し、より戦略的にサステナビリティに取り組み、持続的に成長していくために、2050年をターゲットとした新たなサステナビリティ戦略の策定に取り組んでいます。その一環として、未来のありたい姿を見据え、様々な社会課題とどのように向き合い、アプローチしていくべきなのかを改めて見直し、マテリアリティとして設定しました。

マテリアリティの特定プロセス

ステップ1

評価対象とする課題の抽出

国連グローバル・コンパクト、ISO26000、GRIスタンダードなどCSR・ESGに関する国際的なガイドラインや評価指標の要請事項から、当社グループの事業領域を考慮し、タムラが取り組むべきマテリアリティの候補として評価対象とする約30の項目を抽出しました。

ステップ2

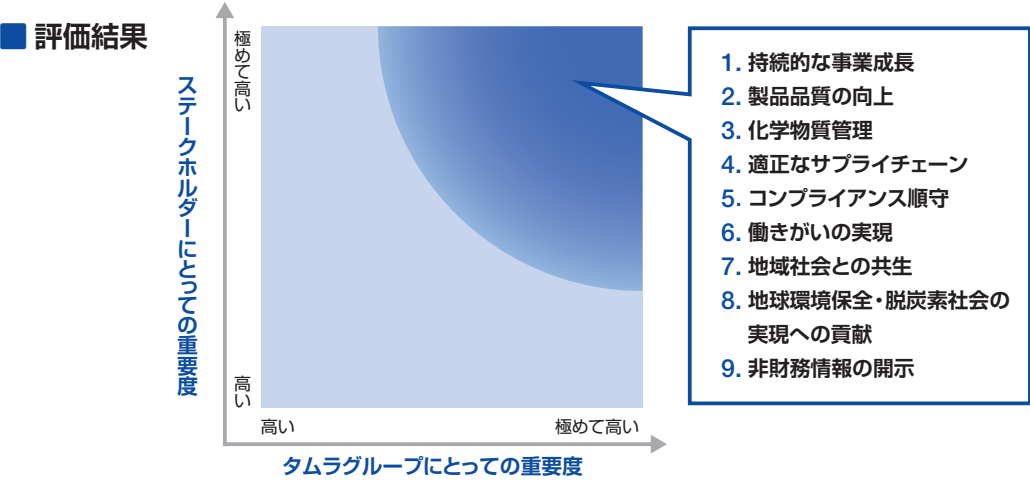
重要性の評価

ステップ1で抽出したマテリアリティ候補に関して、ステークホルダーにとっての重要度とタムラグループにとっての重要度の視点から評価しました。ステークホルダーの視点は、ステークホルダーの皆様との継続的な対話やCSRに関する各種調査等から得られた情報を基に、その関心度合いを考慮し、定量評価しました。タムラグループにとっての重要度は、各課題に関するリスクと機会の側面から分析を行い、事業活動や経営へのインパクトを考慮して定量評価しました。

ステップ3

CSR経営委員会等での討議による特定

評価結果をマテリアリティ・マトリクス上に可視化し、ステークホルダーにとってもタムラグループにとっても重要度が高いと位置づけられた課題について、CSR推進委員会及び社外取締役をメンバーに含むCSR経営委員会において課題の網羅性と妥当性を討議、検証し、9項目のマテリアリティを特定しました。



タムラグループのマテリアリティ

マテリアリティを、「事業に密接する課題」「ESGに密接する課題」「ステークホルダーに密接する課題」の3つに分類しました。

区分	マテリアリティ	ありたい姿	アプローチ	貢献するSDGs
事業に密接する課題	1.持続的な事業成長	持続的な成長と社会課題解決を両立し、世の中に存在価値が認められる企業	サステナブル貢献製品、新規製品、新規市場への継続的な拡販	3 持続可能な消費と生産、7 持続可能なエネルギー
	2.製品品質の向上	お客様のニーズを理解し、要求事項を満足する期待に応える企業	品質方針に基づき行動し、世代を超えて継承する	9 産業と資源効率の向上、11 持続可能な都市とコミュニティ
	3.化学物質管理	化学物質管理を推進し、安全・安心な製品・サービスを提供する企業	サプライチェーン全体での適正な化学物質管理	12 持続可能な消費と生産、13 気候変動に起因する影響の軽減
	4.適正なサプライチェーン	サプライチェーン全体でCSR調達（環境、責任ある鉱物資源、児童労働、BCPなど）を推進する企業	サプライチェーン全体でのCSR調達の推進	16 平和と公正をすべての人に
ESGに密接する課題	5.コンプライアンス順守	社会的責任を理解し、法令等のルールや社会規範及び企業倫理を順守し、社会から信頼される企業	コンプライアンス推進、危機管理体制の維持・強化	5 ジンダリティ平等を推進しよう、7 持続可能なエネルギー
	6.働きがいの実現	人が集まる企業・人が憧れる企業 従業員一人ひとりの人間性を尊重し、従業員が誇り・やりがい・働く喜びを持てる企業	多様性を尊重し、配慮すると共に、従業員を正しく評価する	8 働きがいも経済成長も、13 気候変動に起因する影響の軽減
	7.地域社会との共生	地域社会の一員として地域の発展に貢献し、信頼される企業	地域住民の経済的営み、生活環境向上への貢献	15 陸の豊かさも守ろう、16 平和と公正をすべての人に
	8.地球環境保全・脱炭素社会の実現への貢献	カーボンニュートラルに挑戦 製品・サービス、事業活動の様々な場面で省エネ・脱炭素を推進する脱炭素社会実現に貢献する企業	サステナブル貢献製品や、再生可能エネルギーの導入等による自社活動のカーボンニュートラルの実現	17 パートナリシップで目標を達成しよう、16 平和と公正をすべての人に
ステークホルダーに密接する課題	9.非財務情報の開示	すべてのステークホルダーにとって必要とされる存在であり、世の中の期待に応えられる企業	ESGを意識した情報の適時開示 TCFD対応	16 平和と公正をすべての人に

今後の取り組み

今後は、選定したマテリアリティについて引き続きCSR経営委員会での討議を深めながら2050年のありたい姿を突き詰め、課題解決のためのロードマップを描いてまいります。また2022年度からスタートする中期経営計画策定において目標設定を行い、グループ全体でPDCAを回して取り組んでまいります。

電子部品

「高信頼」「高効率」のパワーテクノロジーで
パワーエレクトロニクスの未来をつくり、
安心・安全な暮らしと脱炭素社会の実現に貢献します。

3 すべての人に
健康と福祉を7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに9 産業と技術革新の
基盤をつくらう11 住み続けられる
まちづくりを13 気候変動に
具体的な対策を

Only One技術で 脱炭素社会の実現に貢献

上席執行役員
マグネティック事業本部長

中津 良

世界で脱炭素化への流れが加速していく中で市場拡大が見込まれる電動車市場、そして創電・蓄電・節電・送配電のエネルギー市場をターゲットに事業拡大を図ってまいります。電動車市場においては、10年以上かけて高性能素材から開発してきた高効率・高信頼性の車載リアクタ、そしてエネルギー市場においては、冷却効率を向上した高効率の大型リアクタのニーズが拡大しております。

今後ますます増加する環境貢献製品の需要に、「高性能・高信頼性・高効率」の技術で応え、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。また、BCPを考慮したグローバル生産体制も構築し持続的な事業の成長につなげてまいります。



Contribution for Carbon Neutral World!!

上席執行役員
ユニット事業本部長

中山 勇二

脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの需要が増々求められている中、ユニット事業本部は、太陽光・風力発電市場、蓄電市場、車載EV市場、電動化市場で求められるパワー半導体制御用のゲートドライバモジュール、インバータ電流検出用ASIC電流センサ、酸化ガリウムなどの次世代半導体技術を利用した次世代高効率電源を開発、シリーズ化しております。

今後さらなる大電力化の市場要求に応えるべく、材料、製造プロセスの見直しを図り、「高信頼」「高効率」化した製品を開発し普及させることで、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

事業の社会価値

- エコカーや、再生可能エネルギー、産業機器など、大電流を扱う電源システムに要求される高信頼で高効率な製品に注力しています。安全設計要求の高いエコカー向け昇圧リアクタはその性能と品質が評価されており、需要増加に応えるため生産力を増強して、エコカーの普及を支えます。
- LED関連製品では、省電力効果の高い高輝度のパワーLEDに加え、センシング技術や通信技術を応用した人感センサを開発、介護施設等で人の活動状況を見守り、暮らしの安全に寄与します。
- 幅広い分野において、搭載機器の省エネ・省資源に貢献するトランス・リアクタ、LED、電源機器、圧電セラミックス製品をグローバルに提供し、エコテクノロジーによる社会問題の解決に寄与します。

製品一覧



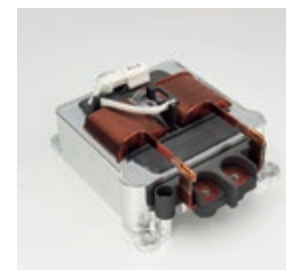
リアクタ・コイル

パワーコンディショナやエアコンディショナなどにおける電圧制御やノイズ除去のための基幹部品。省エネルギー、クリーンエネルギーに貢献します。



高周波トランス

各種電子機器の小型化、高効率化に欠かせない高周波トランス。様々な回路方式に対応可能で、電力変換における高周波化を実現し、省エネルギーに貢献します。



車載用リアクタ

ハイブリッド車・電気自動車などの電圧を最適に制御するための基幹部品。高信頼性・安全性でエコドライブを支えます。



大型トランス・リアクタ

大規模な風力・太陽光発電設備などにおいて、大型トランスは電圧変換、リアクタは電圧制御やノイズ除去のための基幹部品。再生可能エネルギーの拡大に寄与します。



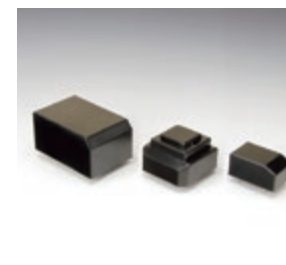
宇宙トランス・リアクタ

電力系トランス・リアクタでは国内唯一のJAXA(宇宙航空研究開発機構)規格認定を取得。人工衛星や打ち上げ用ロケットで活躍しています。



電流センサ

自然エネルギーの有効利用には、機器の電流を高精度に監視する必要があります。充実したラインナップ(電流レンジ、精度レンジ)で、省エネ・創エネ・蓄エネに貢献します。



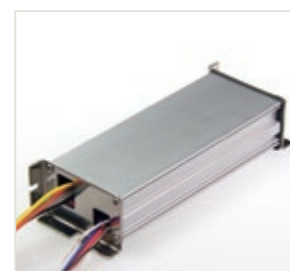
電源モジュール

高効率DCコンバータの機能をパッケージ化しました。お客様の製品にぴったりの高性能電源(高効率・低待機・静音・小型)を、簡単に設計できます。



ゲートドライバモジュール

インバータなどで使用される大電力パワースイッチング半導体を駆動させる製品。低ノイズなのでIGBT、SiC-MOSFETのどちらにも対応可能。機器の設計を大幅に簡素化します。



屋外LED照明用電源

設備照明、道路照明などの屋外LED照明用電源です。高効率、高力率設計で多段階調光機能を内蔵しており、業界トップレベルの省エネ照明を実現できます。



ACアダプタ

光回線終端装置(ONU)などの機器に安定した電源を供給します。雷などの外来ノイズにも強く、インターネットや電話などの通信ライフラインを支えます。



圧電トランス

圧電セラミックスの共振現象を利用し、高電圧を効率良く作り出します。レーザープリンタ、複写機、イオン発生装置などの高圧電源に使用されています。



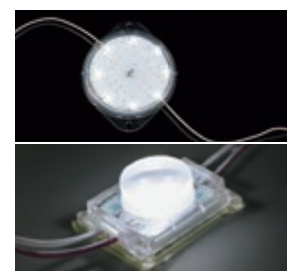
圧電振動子

半導体製造などの洗浄工程で使用する超音波発生用振動子です。タムラ独自の圧電セラミックスを用い、強度が高く、出力に対して発熱が小さいことが特長です。



自動販売機関連製品

シェア90%(当社調べ)を超える商品選択ボタンをはじめ、金額表示器やLED照明など主要部品を開発。価格表示内蔵のボタンは、今や自動販売機のトレンドになりました。



特殊用途LED照明

光学設計の技術を活かした内照式看板や冷蔵ショーケースなど特殊用途に最適なLED照明です。アジアを中心に海外のショーケースにも搭載が始まりました。



3D人感センサ

空間を幅、奥行、高さの三次元でセンシング。対象物の有無に加えて、動体物の姿勢や移動を検知することが可能になりました。



環境可視化センサ

部屋の温度、湿度、二酸化炭素濃度、アレルギー物質などを測定して分析。熱中症、感染症対策など、快適空間をオンラインで見守るサブスクリプションサービスです。

電子化学実装

「高信頼」「高密度実装」のはんだ接合技術を極め、
環境に配慮した材料・装置で
持続可能なエレクトロニクス産業の成長に貢献します。

3 すべての人に
健康と福祉を7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに9 産業と技術革新の
基盤をつくろう13 気候変動に
具体的な対策を

環境に配慮した材料・装置でグローバル市場にチャレンジ



上席執行役員
電子化学実装事業本部長

柴田 誠治

電子化学実装事業本部は、これまでフロン規制や鉛規制などの環境規制にいち早く対応してまいりました。現在はコロナ禍や地金価格高騰などの逆風がありますが、グローバル拠点のネットワークを最大限活用し、様々なチャレンジに取り組みながら、環境に配慮した材料・装置でエレクトロニクス産業に貢献してまいります。

電子化学材料は高耐熱はんだを中心とした高信頼性 solder パステートや、高機能を実現するためのフレキシブル基板向け solder レジスト及びPICC(写真現像型カバーレイコート)などの製造・開発・販売を通じてお客様満足の向上に取り組めます。実装装置は、炉内異物対策技術や熱制御技術を磨き、エネルギー消費削減を実現する環境配慮型の設備で、グローバルのものづくりを支えてまいります。

事業の社会価値

電子化学材料

- 自動車の低燃費化・高機能化に伴い車載部品の電子制御化・小型軽量化が進み、年々厳しくなる信頼性要求に応える優れた材料を提供しています。耐クラック性、耐熱性、耐湿性など、エンジンルーム内の厳しい搭載環境でも優れた性能を発揮する信頼性の高さが強みです。また、スマートフォンやウェアラブル端末など、多機能化・小型軽量化が進む機器へのさらなる高密度実装の要求や様々な接合方法に対応する材料で5G(第5世代移動通信システム)の高速・大容量通信を支えます。

実装装置

- 自動車の電装化の進展に伴う車載用プリント基板の需要増や、「インダストリー4.0」に代表されるスマートファクトリーの進展を背景に求められる、実装機と連携性のある高性能なはんだ付装置を提供しています。省電力・省資源を実現する優れた環境性能を武器に、実装ラインの効率化を実現し、進化する世界の工場のものづくりを支えます。

製品一覧



ソルダーペースト

はんだ粉末とフラックスを混合した表面実装向け接合材料。幅広い金属組成ラインナップで、微細実装用、車載用、マイクロバンプ形成用など各種用途に対応します。



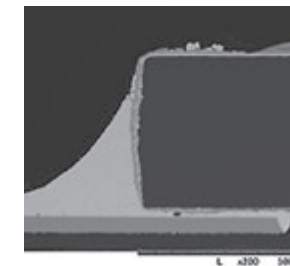
棒はんだ

ウェーブはんだ付装置用のはんだ。ぬれ性や流動性に優れ、汎用から車載用まで幅広い用途の実装に対応します。



糸はんだ

はんだごてによる挿入部品のはんだ付けや、はんだ不良の修正などに使用されます。



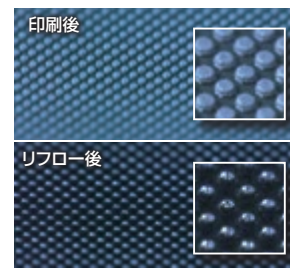
高耐熱はんだ

自動車に搭載される電子機器は小型化・機電一体化により高い耐環境温度性が求められています。はんだ接合部のクラック発生を抑制し、電子機器の信頼性向上に貢献します。



ポイントはんだ付材料

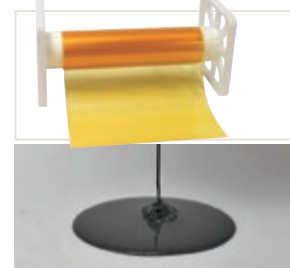
レーザー等急加熱のはんだ付に対応したソルダーペーストです。3D実装、部分のはんだ付が可能になります。ジェットディスペンス対応品もラインナップ。

低アルファ線
ソルダーペースト

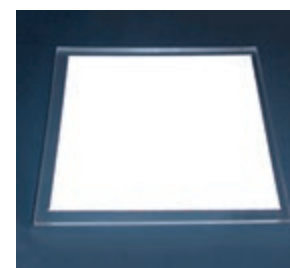
ボイドの発生が少なく、狭ピッチの印刷に対応したハロゲンフリータイプの半導体パッケージ用途マイクロバンプ形成用ソルダーペーストです。

フレキシブル基板向け
ソルダーレジスト

ハロゲンフリーで豊富なカラーバリエーションに対応したフレキシブル基板向けソルダーレジストです。

写真現像型カバーレイ
コート(フィルム・液状)

機能モジュール化を実現させるために必要な加工性、微細実装対応、軽量薄型化、高い信頼性を有した絶縁材料です。



白色反射材

LED基板や太陽光発電パネルの背面に塗布し、反射率を高めます。高反射率、耐変色性に優れたハロゲンフリーの高機能材料です。



黒色吸収材

プリント配線板やフィルムの表面に塗布して、LEDの発光を際立たせます。配線を覆い隠すなど、デザイン性の要求にも応えます。



リフローはんだ付装置

プリント配線板に搭載された電子部品を加熱してはんだを熔融させ、部品と基板の回路を接合する装置。新型機では、装置内部の気体を効率的に誘導する対流制御技術を搭載し、炉内へのフラックス付着の低減、窒素消費量の低減を可能とします。



ウェーブはんだ付装置

電子部品を挿入したプリント配線板の下面をはんだ槽に浸しながら通過させ、はんだ付接合する装置。浸食に強いチタン製のはんだ槽を使用し、加熱力の高い熱風ヒーターでプリヒートするはんだ付システムです。

情報機器

「音」を通して社会基盤の「安全・安心」の向上を図り、 お客様に「価値」「感動」を提供します。



情報機器事業と光波事業の連携強化で、新市場・新製品開拓を推進

取締役上席執行役員 情報機器関連事業統括
情報機器事業部長兼、株式会社光波代表取締役社長

南條 紀彦

日本全国のテレビ・ラジオから流れる音声の多くは、タムラ製作所の音声調整卓を通して流れています。2021年度より、効率的な番組制作に寄与するIP機能を搭載した次世代音声調整卓NTXシリーズを市場投入し、日本国内生産ならではのきめ細かいメンテナンス・サービスを通じ、お客様に感動を提供いたします。また、高輝度LED技術・センシング技術・通信技術を持つグループ会社(株)光波とのさらなる融合を進め、3D(ミリ波)センサ・環境可視化センサ等各種センサ類により、暮らしの見守り・安全・安心に貢献できるデジタルヘルス製品の開発・拡大を推し進め、高齢化社会における安全な暮らしに貢献してまいります。

製品一覧



放送用音声調整卓

テレビ・ラジオ放送局などで使用される
音声を調整する機器です。
音響技術とネットワーク技術を融合することで、番組制作を効率的に行えるIP機能を実現しております。

事業の社会価値

- 放送、通信分野で培った音声技術、通信技術を軸に、高解像度4K・8Kテレビ放送に対応する音声調整卓をはじめ、ワイヤレスインターカム等を放送局を中心に展開、視聴者の新しい体験を生み出し快適な暮らしの実現に寄与します。
- 独自の無線技術を、人の安全を見守るための様々なシステムに応用を進めています。

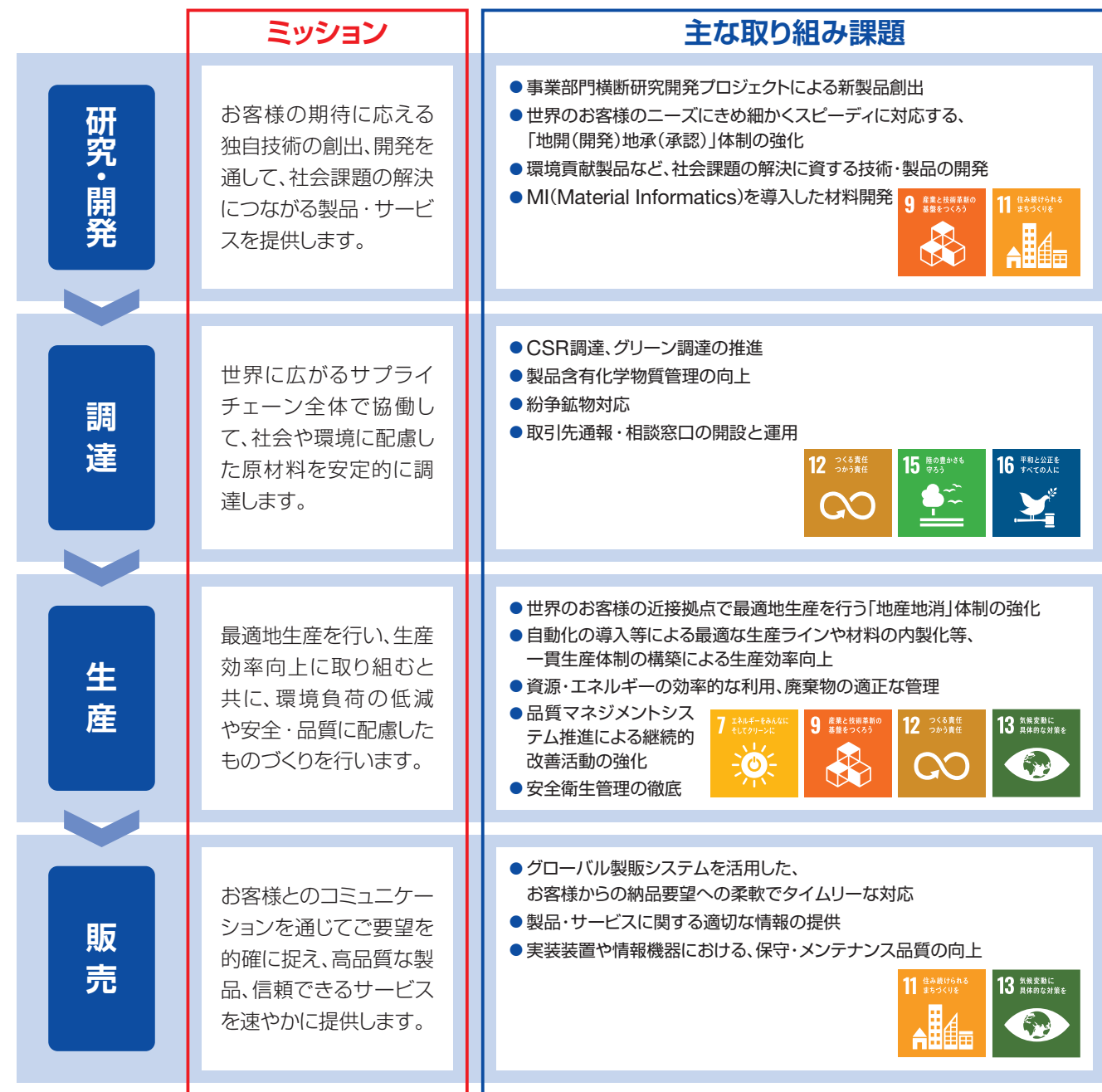


ワイヤレス機器

DECT規格インターカムをはじめとする各種ワイヤレスインターカムは、テレビ、ラジオ放送の番組制作におけるコミュニケーションツールとして必要不可欠な製品です。駅用ワイヤレスマイクロホンは、ホームへの拡声放送だけでなく、制御用スイッチで、発車ベルや戸閉合図表示器の制御が可能です。

持続可能なバリューチェーン ～創出する付加価値～

タムラグループは、世界のお客様に喜んでいただける、高品質で安全・安心な製品・サービスを提供し続けるために、研究・開発から調達、生産、販売までの全てのプロセスにおいて、社会や環境に与える影響に配慮しながら事業活動を推進することで、社会課題の解決に取り組んでいます。



バリューチェーンを支える基盤

バリューチェーンの各プロセスにおいて付加価値を創出するため、ガバナンスやコンプライアンスの有効な機能、事業活動を担う多様な人材の確保と育成、各拠点において地域社会への貢献や環境保全の取り組みを強化してまいります。





CSR目標と実績

タムラグループでは、環境・社会・ガバナンスに関連する、「環境」「人権・労働」「品質」「社会貢献」「コンプライアンス・企業倫理」「危機管理」「情報管理」分野のCSR推進に取り組んでいます。

※ SDGs(持続可能な開発目標)とタムラグループの取り組みの関連性を示すため、各項目に対応するアイコンを掲載しています。

自己評価

- 達成率100%以上
- 達成率80~100%
- 達成率80%未満

報告ページ

冊子:
TAMURA CORPORATION REPORT 2021で
報告している活動を示します。
Web:
<https://www.tamura-ss.co.jp/jp/csr/index.html>
一部を除いて活動全般を報告しています。

	項目	重要課題	2020年度目標	2020年度の主な実績	自己評価	2021年度目標	報告ページ
環境	環境	● 環境貢献製品の提供	● プレミア環境貢献製品 売上比率:15%	● 14%【計画未達成】		● プレミア環境貢献製品 売上比率:7%	冊子:23・24ページ Web: ◆ 環境経営 ◆ 環境目標及び実績と評価 ◆ 環境貢献製品 ◆ 環境保全への取り組み
		● 環境負荷物質の抑制、削減	● 環境負荷物質: 2005年度比原単位 60%削減	● 56%【計画未達成】		● 環境負荷物質: 2005年度比原単位60%削減	
		● 省エネルギー、省資源の推進	● CO ₂ 排出量: 2013年度比8.6%削減	● 15%【計画達成】		● CO ₂ 排出量: 2013年度比9.8%削減	
		● ISO14001統合認証取得の推進	● 環境法規制順守	● 環境法規制違反なし		● 環境法規制順守 ● 内部環境監査員養成研修/ スキルアップ研修実施	
社会	人権・労働	● 人事制度・人材育成	● グローバル人材・経営層の育成 ● 人事制度の改定	● 従業員の価値観や働き方の多様化に対応し、働きがいの向上を目指す新人事制度の導入		● グローバル人材・経営層の育成	冊子:25・26ページ Web: ◆ 人権・労働 ◆ サプライチェーンマネジメント
		● 働き方改革	● 労働環境の整備 ● RPA(Robotic Process Automation)導入による業務効率向上 ● ヘルスケアの充実	● 勤務場所・時間の自由度を高めるICTインフラと社内規定の整備 ● 在宅勤務制度の導入 ● 労務管理研修、ストレスマネジメント研修実施 ● 有給休暇取得の促進 ● RPA導入部門での業務効率向上 ● ストレスチェック、定期的なストレスカウンセリングの実施		● 労働環境の整備 ● 業務改革プロジェクト発足、間接業務の見直しによる効率向上と付加価値増大 ● ヘルスケアの充実	
		● 多様性の推進	● 女性活躍推進行動計画の実践 ● 障害者雇用・高齢者雇用の推進	● 若手社員向けキャリア形成支援相談会実施 ● 育児・介護に従事する従業員向けの在宅勤務日・勤務時間帯を選択できる勤務体系導入 ● 障害者雇用・高齢者雇用の推進		● 女性活躍推進行動計画の実践 ● 障害者雇用・高齢者雇用の推進	
		● 安全衛生推進	● 安全衛生推進	● 安全衛生社内巡視、自動車・自転車運転者向け安全運転習慣自己診断等の実施		● 安全衛生推進	
		● CSR調達の推進	● 紛争鉱物対応	● 「調達ガイドライン」に沿った契約等締結の推進 ◆ 紛争鉱物不使用 ◆ 反社会的勢力排除		● 紛争鉱物対応	
		● 高品質な製品の提供	● 品質教育体系の整備・拡充 ● 品質月間における品質向上啓蒙活動 ● タムラグループ品質推進大会の開催	● 品質方針の改定と周知 ● デザインレビュー実践研修・仕事の教え方講習・品質基礎研修・QC検定資格取得サポートの実施 ● 品質月間初日に品質担当執行役員からメッセージ伝達 ● タムラグループ品質推進大会の開催		● 品質方針の周知 ● 品質教育体系の整備・拡充 ● 品質月間における品質向上啓蒙活動 ● タムラグループ品質推進大会の開催	冊子:26ページ Web: ◆ 品質・サービス ◆ サプライチェーンマネジメント
	品質	● グリーン調達の推進	● グリーン調達基準の更新 ● 製品含有化学物質管理の強化	● グリーン調達基準の更新 ● 製品含有化学物質法規制の制定、改廃情報の共有化推進		● グリーン調達基準の更新 ● 製品含有化学物質管理の強化	
	社会貢献	● 継続性のある社会貢献活動の実施	● 各種寄付活動 ● リサイクル資源回収活動の推進	● 各種寄付活動 ● バングラデシュにおけるドロップインセンター事業支援 ● 使い捨てコンタクトレンズ空ケース回収、古本寄付、使用済み切手収集活動の推進 等		● 各種寄付活動 ● リサイクル資源回収活動の推進	冊子:26ページ Web: ◆ 社会貢献活動
		● 地域共生、ボランティア活動の実施	● ものづくり教室開催 ● インターンシップ・職場体験学習受け入れ ● 地域共生、ボランティア活動の実施	● 坂戸事業所の解体予定建屋を、消防署訓練に提供 ● 各事業所近隣・周辺環境美化活動の推進、赤谷プロジェクトへの参画 等		● ものづくり教室開催 ● インターンシップ・職場体験学習受け入れ ● 地域共生、ボランティア活動の実施	
		● 文化、芸術、スポーツ振興の実施	● スポーツ振興	● 女子サッカーチーム(ちふれASエルフェン埼玉)への協賛		● スポーツ振興	
ガバナンス	企業倫理・コンプライアンス	● 法令、ルール順守の推進	● コンプライアンス教育の推進	● 特許、安全保障輸出管理、契約、不正競争防止等、法実務に関する研修 ● 研修教材を用いた小集団での討議形式研修 ● 身近なコンプライアンス違反のニュースやケーススタディ等をわかりやすく解説するメールマガジン配信		● コンプライアンス教育の推進	Web: ◆ CSRマネジメント ◆ コンプライアンス
		● CSRの浸透	● SDGs浸透の継続	● SDGs研修や社内報等によるSDGsの社内浸透、SDGs教育の海外展開		● SDGs浸透の継続	
	危機管理	● 危機管理の強化	● 新型コロナウイルス対応 ● BCP(事業継続計画)文書の定期・臨時の見直し ● 防災訓練の実施	● 新型コロナウイルス対応と事業継続の両立 ● 事業セグメントごとにグローバルでBCPを展開 ● 国内各事業所にて、避難訓練、安否確認訓練を実施 ● 国内各事業所における備蓄品の拡充		● 新型コロナウイルス対応の継続 ● BCP再構築、BCM(事業継続マネジメント)強化 ● 防災訓練の実施	冊子:26ページ Web: ◆ リスクマネジメント ◆ 人権・労働
	情報管理	● 情報保護体制の強化	● 情報保護体制の強化	● サイバー攻撃や情報漏洩防止のためのネットワークセキュリティの強化		● 情報保護体制の強化	Web: ◆ リスクマネジメント ◆ コーポレート・ガバナンス
		● 適時適切な企業情報開示の推進	● Webサイトによる適時適切な企業情報開示	● Webサイトによる適時適切な企業情報開示		● Webサイトによる適時適切な企業情報開示	



環境トピックス

グローバル統合認証を通じた脱炭素社会への貢献

タムラグループは、2006年度よりグローバルに統一した環境マネジメントシステムを構築し、2020年度までに16社23サイトを統合し、タムラグループ全体の環境パフォーマンスの向上、環境ガバナンスの強化に取り組んでいます。

この度、2050年までのカーボンニュートラルを見据え、2030年度の温室効果ガス削減目標を2013年度比21%以上削減から51%以上削減に引き上げ、2022年度から適用を開始します。

タムラグループでは、持続的な成長と持続可能な社会の実現に向け、徹底した省エネや再生可能エネルギーの活用に取り組んでまいります。

タムラグループ環境目標

- 温室効果ガス排出量*：
2030年度 **51%以上削減**(2013年度比)
- 再生可能エネルギー導入量：
2030年度 **2倍以上**(2019年度比)

* ● Scope1(自社での燃料使用や生産プロセスからの直接排出)、Scope2(自社が購入した電気や熱の使用による間接排出)を対象。
● 新工場に係る排出量は基準年含む過去年度へ上乗せし、事業開始後の削減努力を適切に評価。
● 排出係数は、原則として契約に基づいて購入した電力の排出係数。

タムラグループ環境方針

環境理念

タムラグループミッションである「私たちは、タムラグループの成長を支える全ての人々の幸せを育むため、世界のエレクトロニクス市場に高く評価される独自の製品・サービスをスピーディに提供していきます」に基づき、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、並びに生物多様性及び生態系の保護を推進し、全ての企業活動において環境との調和を図ります。

重点施策

SDGs(持続可能な開発目標)やパリ協定をはじめとするグローバル目標を認識し、事業の継続的な成長を目指して、タムラグループの事業である電子部品、電子化学材料、はんだ付装置、情報機器関連の設計・開発・製造・サービス活動において、環境マネジメントシステムを運用し、資源の有効活用、汚染の予防及び法規制等を順守すると共に、その継続的な改善を図り、次に示す環境保全活動を重点的に実施します。

1. 環境貢献製品を提供します。
2. 環境負荷物質を抑制し、削減します。
3. 省エネルギー、省資源を推進します。



Topics 環境に配慮した坂戸事業所

坂戸事業所(埼玉県坂戸市)の事務棟は、建物のエネルギー消費量と、創エネによるエネルギー供給量の合計で正味75%以上の省エネを達成する「Nearly ZEB」として整備するなど環境に配慮した取り組みを推進しています。2020年度は、駐車場緑化や生物多様性の保全に配慮した緑化(在来種[ヤマボウシ、ヤマザクラなど])を行いました。



駐車場緑化



生物多様性の保全に配慮した緑化



プレミアム環境貢献製品の取り組み

タムラグループでは、開発・設計段階で製品環境アセスメントを実施し、環境影響の最小限化に取り組むと共に、プレミアム環境貢献製品の開発・提供を通じてSDGsへの貢献に取り組んでいます。

ゲートドライバモジュール:2DUD_Pシリーズ、2LGシリーズ

2DUD_Pシリーズ、2LGシリーズは2MWクラスの太陽光発電、風力発電システムに適した高電圧・高電流IGBT・SiC-MOSFET(1700V/1800Aクラス)に対応したゲートドライバです。

タムラ独自の、「低容量結合絶縁型DC-DCコンバータ」「低インピーダンスドライブ回路」「ゲート配線を最短とする構造設計」により、3000Aを超えるスイッチング動作においても安定したゲートドライブが可能です。また、DESAT検知、ソフトターンオフにより10000A以上の短絡電流に対しても安全に停止する短絡保護機能に加え、アクティブクランプ・UVLO・ミラークランプ等のIGBT・SiC-MOSFET駆動に重要な機能も搭載しています。

お客様の開発するシステム全体の信頼性や設計効率を高め、カーボンニュートラルの実現に向けてニーズが加速する再生可能エネルギーの安定供給に寄与する製品です。



2DUD_Pシリーズ

2LGシリーズ

リサイクルSn適用ソルダーペースト TLF-204-27F4-R

TLF-204-27F4-Rは、お客様から回収した廃はんだを精錬してリサイクルした錫を使用したソルダーペーストです。品名の「R」はRecyclingを示しています。

生産過程で使用後にリサイクルされた材料(Post-Industrial)と最終消費者が使用後にリサイクルされた材料(Post-Consumer)を対象とし、認証機関SGSの認証『Recycling Verification Statement』を受けています。グローバルで益々高まる持続可能な社会の実現に向け、環境再生、廃棄物対策などの資源循環に配慮した製品です。

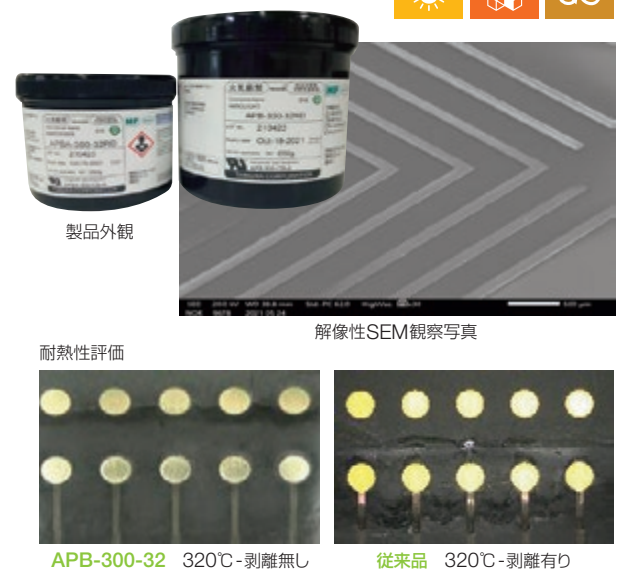


フレキシブル基板用ソルダーレジスト APB-300-32シリーズ

スマートフォン、ウェアラブル端末のさらなる高機能・軽薄化に伴い、フレキシブル基板(FPC)の高集積・高密度化が進んでいます。

FPC用黒色写真現像型ソルダーレジスト APB-300-32シリーズは、耐熱性と密着性を向上させることで、コネクタレス化の実現と短時間接合プロセスに対応した製品です。また、FPC製造時の露光工程では、当社従来比1/2以下の低露光(100mJ/cm²)と高解像性能を達成。高密度FPC工程に必須とされるダイレクトイメージング露光プロセスで、高い生産性と優れた解像性を実現しました。

環境に優しいハロゲンフリー製品であると共に、先端技術の発展に貢献しています。



APB-300-32 320℃-剥離無し

従来品 320℃-剥離有り



社会・ガバナンストピックス

働き方改革・業務改革の推進

快適に仕事に専念できる労働環境の整備

働きがいの向上と適切な労務管理を両立させることにより、従業員が継続して快適に仕事に専念できる労働環境づくりに取り組んでいます。

働きがい向上施策として、育児や介護、ボランティアなど多目的休暇や、時間単位での有給休暇を取得できる制度を導入しています。また、育児、介護、配偶者の転勤など一定の理由で退職した従業員を再び従業員として受け入れる制度を設けるなど、従業員の価値観や働き方が多様化する中で、仕事と家庭の両立支援を実施しております。また、在宅勤務制度も導入し、業務サーバへのアクセス強化などインフラ面や規程の整備を行いました。自律した働き方を支援しつつ、対面でのコミュニケーション機会が減ってもチームワークが損なわれることの無いよう、マネジメント手法の指導や、メンタルヘルスのケア等に力を入れています。

労務管理の適正化に関しては、管理監督職を対象に、労務管理研修及びストレスマネジメント研修を実施し、コンプライアンスに基づく労務管理の徹底とストレスの少ない職場環境の実現に向けた取り組みを推進しています。

業務効率向上への取り組み

2021年度から社長を最高責任者とする業務改革プロジェクトを発足し、業務効率向上に取り組んでいます。RPA（Robotic Process Automation）を先行導入した部門で成果が出ていることから、本格的に全社への水平展開を行い、定型業務の自動化とそれに伴う従業員の高付加価値業務へのシフトを進めています。

人と組織を活性化する 新人事制度の導入

人事マネジメントの「育成」「配置」「処遇」という3要素を適正かつ効果的に運用し、人と組織の活性化を図るため、公正・公平な人事評価制度を運用しています。評価にあたっては、「行動特性評価」と「目標チャレンジ評価」を実施し、従業員の一人ひとりを公正な視点で評価します。さらに、人事評価の公平性・透明性を担保するため、管理監督者層には評価者研修を義務づけています。また、処遇にあたっては、年齢、学歴、性別などにとらわれず、従業員の職務・職責に基づきグレードの階層を定める職務グレード制を導入しています。

これら人事マネジメント体系を2021年4月に刷新し、従業員の価値観や働き方の多様化に対応しました。管理職層には高いマネジメント力の発揮と従業員が安心して活躍できる環

新型コロナウイルス対策と事業継続の両立

当社グループの事業所や工場は、所在する各国の政府や自治体からの新型コロナウイルス感染拡大防止に関する指針に従うと共に、テレワーク・輪番勤務・時差勤務の導入、国内外出張からWeb会議システムへの転換、オフィス内での分散勤務などの様々な対策を講じています。また、従業員等に感染者、もしくは感染のおそれがある者が発生した場合には、あらかじめ定めたフローに沿って速やかに対応することで、感染拡大防止と事業継続の両立を行っています。

タムラグループでは、新型コロナ拡大前の2019年度中にオンライン会議システムの導入を完了しておりました。そのため2020年度はスムーズに「新しい生活様式」への移行ができており、経費削減効果も上がっています。



境づくりを期待し、「心理的安全性」の概念の導入や360度評価の実施など、チーム力の発揮に重点を置いた施策を推進しております。高度専門職層は役割定義を厳格化、高い専門性を発揮して、市場に競争力のある製品やサービスを提供することを使命とし、その成果によりメリハリのある処遇を行うこととしました。また、あらゆるジェンダー・年代層が活躍できるよう行動特性の評価項目を全般的に見直しました。特に若年層のグレードにおいては最短昇格年次を大幅に短縮し、早期により高度な仕事に携われる機会を設けました。

これらの新制度の運用により、従業員の多様な働き方を支援し働きがいを高めてまいります。

品質方針改定

今後、さらなる企業成長要素の一つとして必要不可欠な「品質」について、改めて品質第一の発想があたりまえの企業文化を醸成する必要があるとの思いから、2021年1月に品質方針を改定しました。新しい品質方針では、創業期に掲げられ中期経営計画にも引き継がれた「Biltrite Tamura」が意味する「正しく立派な製品を作る」をグループの羅針盤として決めました。また、この品質方針の意味を具体的な行動指針（生産系はモノづくり八か条、開発系は設計十訓）として示すこと

タムラグループ品質方針

8

9

12

正しく立派な製品を作る Biltrite Tamura

正しく

- ・お客様のニーズ、業界のあたりまえを正しく把握し理解
- ・ニーズに見合う品質要件を定義し、正しい判断、行動

立派な製品

- ・お客様の期待にこたえ嬉しさを提供する製品

作る

- ・仕事のプロセスと出来栄にこだわったモノづくりの実践

私たちは

- 1 一流の知識、技能、正しい基準を学び、学ばせ、プロフェッショナルを目指します。
- 2 決めたことを守り、守らせ、常に最適な判断と行動に努めます。

2021年1月1日 代表取締役会長 田村 直樹

UD FONT

で、世代を超えたタムラの品質文化として定着することを目指します。

毎年社内で開催している品質推進大会にて会長が改定に向けたメッセージを発信し、全グループ拠点へ日・英・中の言語によるポスター、解説資料を配付しました。さらに社内報記事掲載を行うなど、従業員への周知、浸透を進めています。

取引先通報・相談窓口開設

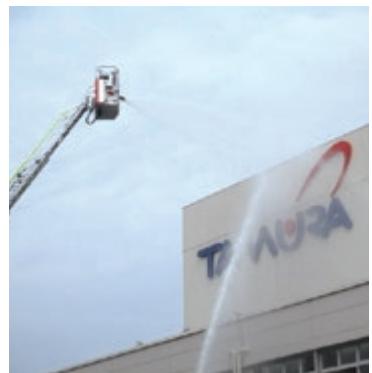
タムラグループ関係者がコンプライアンスに違反する行為を行った場合、もしくはその疑いがある場合に、その旨を取引先様からお知らせいただくことで、法令違反行為等の早期発見と是正を図ることを目的に、2020年10月より取引先通報・相談窓口を当社Webサイト上に開設し、主要な取引先様へ通知いたしました。まずは日本国内で運用を開始し、海外拠点にも展開してまいります。

当社グループでは役員・従業員を対象とした内部通報制度を整備・運用しておりますが、本窓口の開設とその運用を通じて、コンプライアンス経営のさらなる強化を図ってまいります。



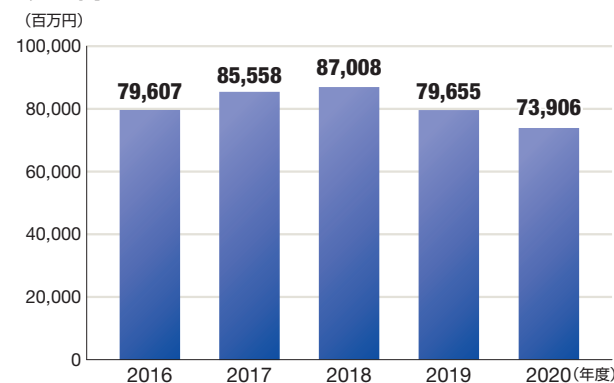
解体予定の建屋を消防訓練に提供

坂戸事業所再開発に伴い解体予定であった工場建屋を提供し、坂戸・鶴ヶ島消防組合による実災害想定訓練が2020年10月に実施されました。建物の倒壊を想定し、切岩機でコンクリートの床に穴を開けて、下階に取り残された人を救助するなど、実践さながらの訓練が行われました。

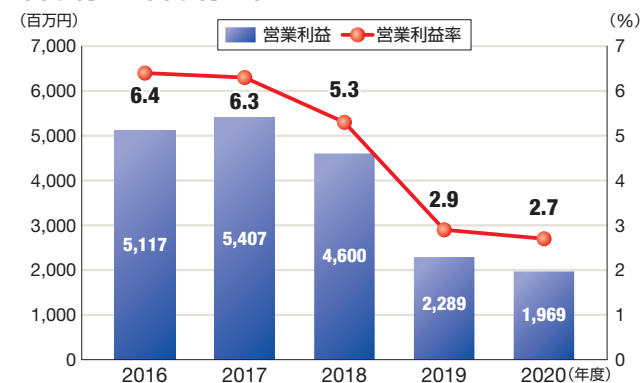


主要財務データ(連結)

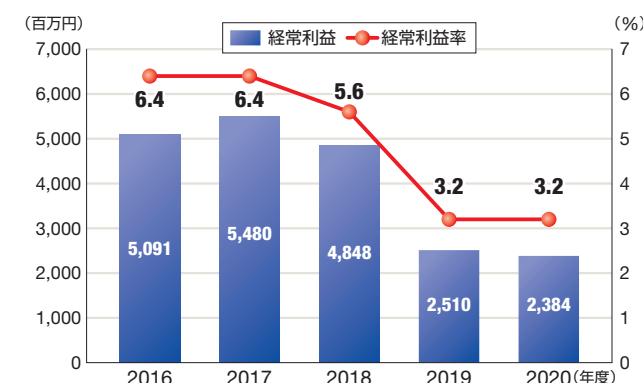
●売上高



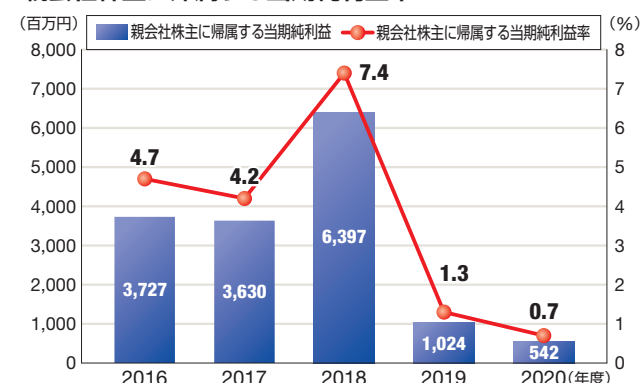
●営業利益／営業利益率



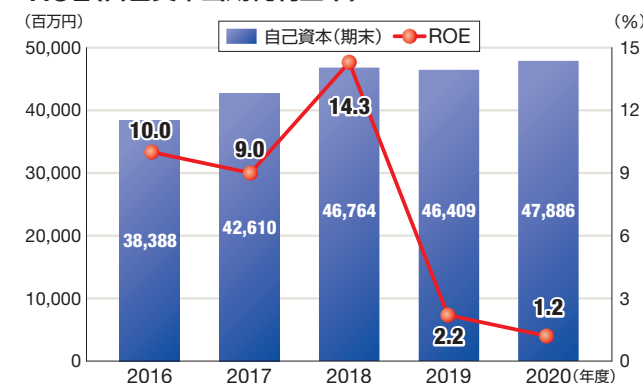
●経常利益／経常利益率



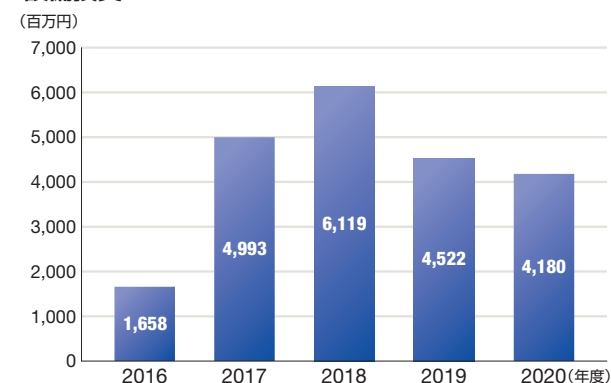
●親会社株主に帰属する当期純利益／親会社株主に帰属する当期純利益率



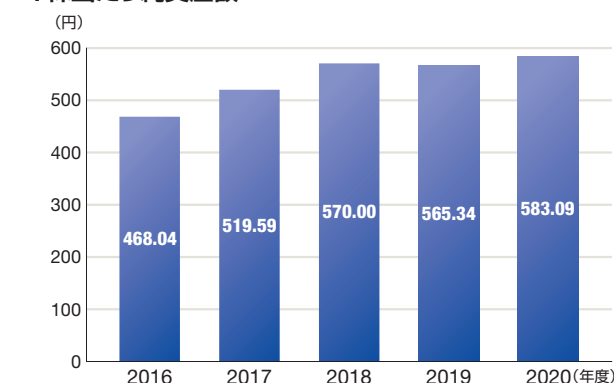
●ROE(自己資本当期純利益率)



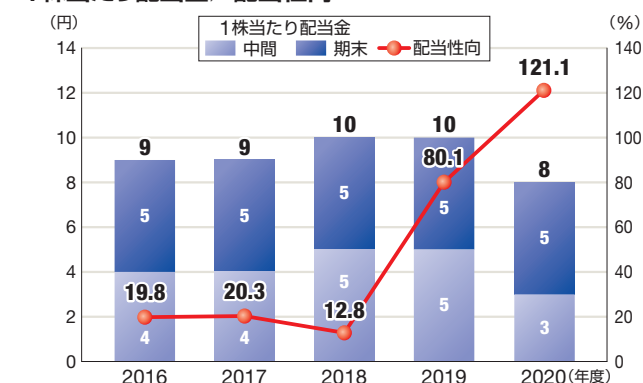
●設備投資



●1株当たり純資産額

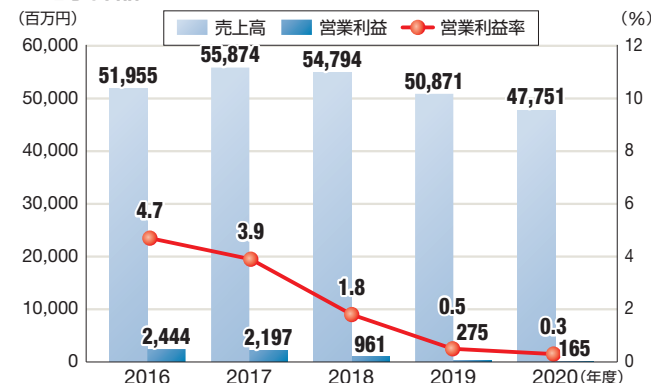


●1株当たり配当金／配当性向



事業部門別 売上高／営業利益／営業利益率

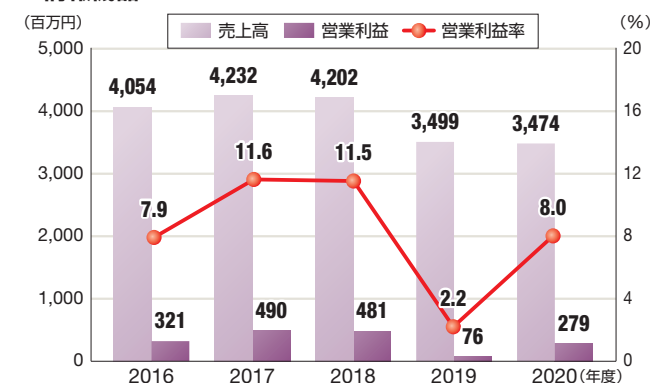
●電子部品



●電子化学実装



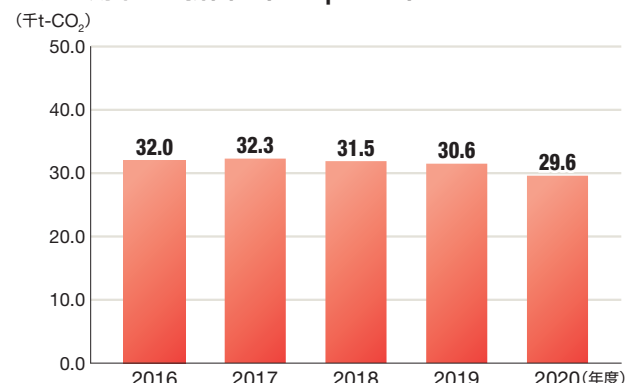
●情報機器



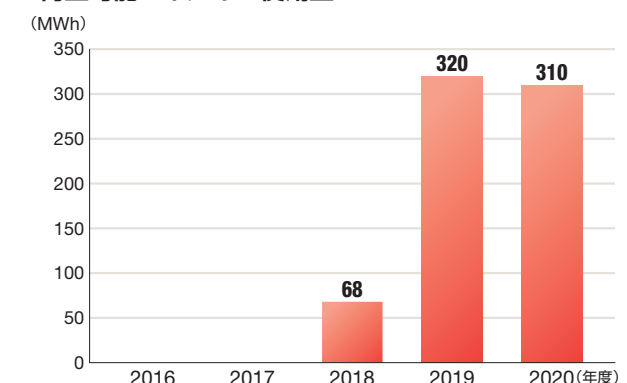
※連結消去(主に全社未来開発費)により、営業利益の全社の値と、事業部門の合計が一致しません。

主要非財務データ

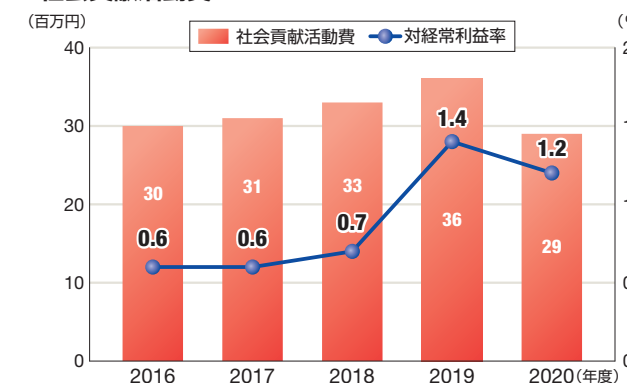
●温室効果ガス排出量(Scope1、2)



●再生可能エネルギー使用量



●社会貢献活動費



※金銭・物品提供、施設提供、活動に携わった従業員の人件費を金額換算して算出しています。

EUROPE

AMERICAS

ASIA

JAPAN

■ 田村電子(蘇州)有限公司

2019年7月設立し、電子部品事業中国生産拠点再編の一環として田村電子(深圳)からチャージャ生産を移管しました。チャージャを中心に電源関連製品群の生産工場として2020年10月より本稼働しています。



■ 田村汽車電子(佛山)有限公司

田村汽車電子(佛山)はタムラグループ中国初の車載用昇圧リアクタ専用工場として設立されました。2021年1月に建屋が完成、2022年の本格量産開始に向けて様々な準備を進めています。

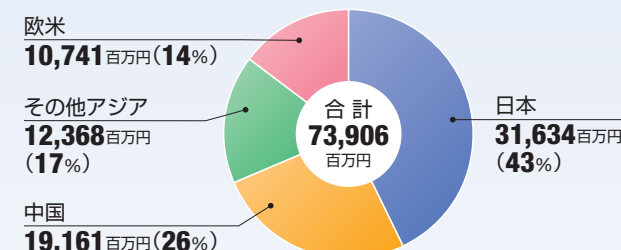


■ 株式会社タムラ製作所 坂戸事業所 車載新工場

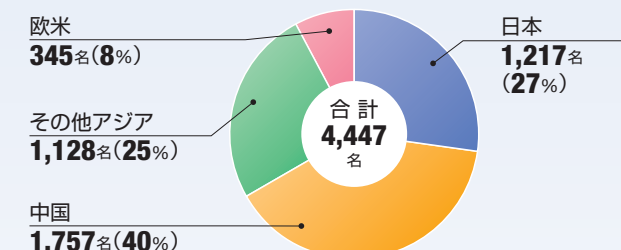
車載用昇圧リアクタの生産拡大に対応するため坂戸事業所内に新工場を設立しました。2020年12月に建屋が完成、2022年の本格量産開始に向けて準備を進めています。



● 地域別売上構成(連結) (2020年度)



● 地域別従業員構成(連結) (2021年3月31日現在)



- 本社・地域統括・その他
- 電子部品
- 電子化学材料
- 実装装置
- 情報機器



コミュニケーション・オン・
プロGRESS

国連グローバル・コンパクトの原則の実践
状況および国連の様々な目標の支持につい
て、この**コミュニケーション・オン・プロGRESS**
を通じて報告しています。

内容に関するご感想・ご意見を歓迎します。



タムラグループマスコット
“クーニユ Quenu”

株式会社タムラ製作所

TAMURA CORPORATION

<https://www.tamura-ss.co.jp/>

〒178-8511 東京都練馬区東大泉1-19-43